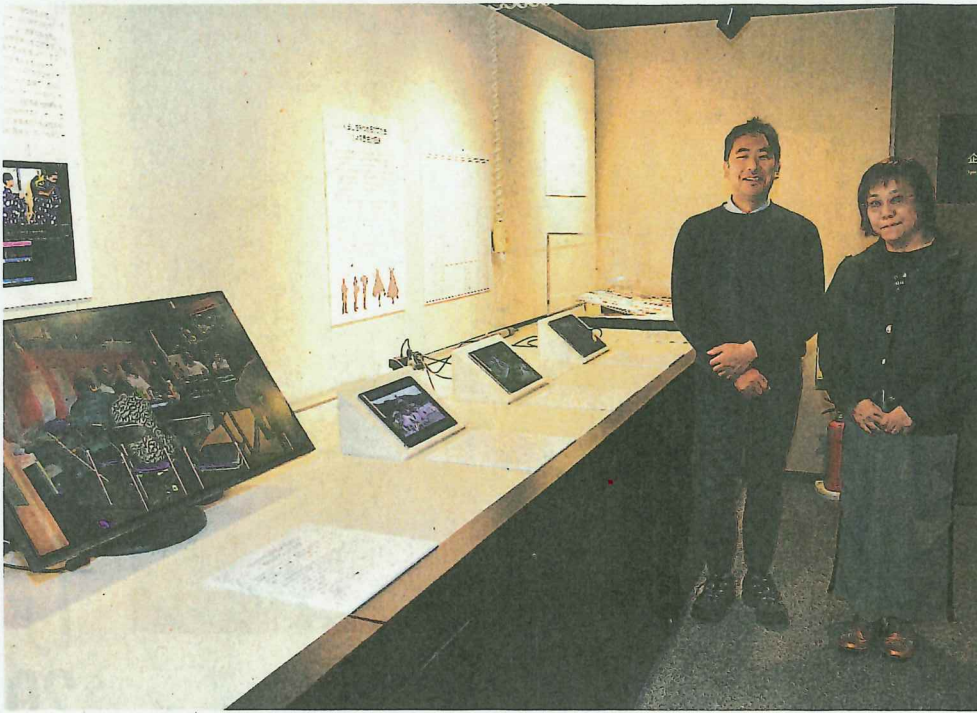


# 民俗学 映像活用考える

弘 前

## 弘大資料館・人文社会科学部が企画展

弘前市の弘前大学資料館で、企画展「撮る、残す、活かす―映像資料と東北の民俗―」が開かれている。スマートフォンなどで気軽に写真・動画が撮れる今、民俗学的なものを映像などで残し、活用していくことについて考える。本県を中心とした東北地方の風俗に関する映像記録も紹介。12月26日まで。  
(菅井大輔)



さまざまな映像を映すモニターと葉山准教授(左)、山田館長

### 来月26日まで 東北の生活風景など紹介

同資料館と同大人文社会科学部が主催。同学部の葉山茂准教授が企画した。

展示スペースには10台のモニターがあり、東北地方の人々の生活の風景、神事などが上映されている。中には編集し、字幕を付けたものも。共催の県立郷土館が所蔵する古い映像の一部も見ることができる。葉山准教授によると、民俗学の研究は研究者と調査される対象がコミュニケーションを取り、進められることが理想という。

近年、機器の発達などで、自分の力で撮った映像を編集、一つの動画に仕上げるができるようになった。葉山准教授は「企画展を映像の持つ力を活用していくことを考える機会として」と述べ、同資料館の山田館長は「展示を見て、自分なりの価値を発見してほしい」と語った。

企画展は午前10時から午後4時まで(入館は午後3時半まで)。日曜、祝日は休館。

16日には同学部4階多目的ホールで東北地方民俗学合同研究会青森大会が行われる。東北6県の研究者らが民俗学と動画活用の今後について考える。

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学資料館 [jm3432@hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3432@hirosaki-u.ac.jp)